



# 鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校  
鴻巣市大間1161番地  
令和4年5月2日

第2号

## ひたすら読む、ひたすら書く

～「朝の読書」と「帰りの視写」で～

校 長 服部幸司



左は、2年4組の朝読書の様子です。毎朝、登校後8:20に各教室を訪れると、1年生から3年生まで全校生徒が真剣に本を読んでいます。正に、「静」で始まる西中の朝です。

下は令和4年4月23日(土)の埼玉新聞コラム「さきたま抄」の冒頭部分です。▼～▼までの部分は、私がひらがなに直したものの(句読点、「」等省いています)ですが、スラスラと漢字かな交じり文に直せるでしょうか。→ 答えは矢印の下です

2の4朝読書の様子(令和4年5月2日(月)朝)

本校では一昨年度から『コラム視写』に全校で取り組んでいます。(火)～(木)の帰りの会始まりの5分間です。

新聞のコラムは、決められた字数でタイムリーな話題が的確に無駄なく表現されています。しかも、読者に対する記者の「静かでありながらも熱い思い」が語られ、生徒の人格形成に資するものも数多くあります。

今春も多くの若者が社会人として新たな一歩を踏み出した。(中略)「新聞記者になったんだっただったら、本を読まなきゃだめだ。人情の機微を知らねえで記事書けっか。それと、時たまでいいから美術館へ行つてこい」。駆け出しだった30年ほど前、(中略)よく論された▼どくしよをとおしてにんげんのほんしつをとらえるそうぞうりよくをびじゅつかんしようをとおしてほんものをみきわめるめをやしなえ▼続く

■新聞のコラムは、決められた字数でタイムリーな話題が、的確に無駄なく表現されています。

▼今春も多くの若者が社会人として新たな一歩を踏み出した。フレッシュな面々と接すると、自分が入社した頃の期待と不安が入り交じった、始まりの春を思い出す▼「新聞記者になったんだっただら、本を読まなきゃだめだ。人情の機微を知らねえで記事書けっか。それと、時たまでいいから美術館へ行つてこい」。駆け出しだった30年の焼き鳥屋でよく論された▼読書を通して人間の本质を捉える想像力を、美術鑑賞を通して本物を見極める目を養え！。その教えは今も大切にしている。社会人1年目は人生最大の転機だ。見るもの聞くもの全て新鮮で不安はあったが楽しかった▼ただし情けない思いもした。日々、事象の表面を追いかけると、日々の、事象の表面を見かけるのに精いっぱい。現場で思いや感動をうまく表現できない。原稿は手直しばかりで、書くのは先輩記者の3倍以上も時間がかかるから、夕食を抜くのもしばしばだった▼その分、自分何ができるか、正面から向き合っていないか、徹しきも励ましてきた上司や先輩、同僚の存在も大きかった。必死だった1年目の経験は今も仕事をする上で内外となつていいる▼新社会人は国内外の社会情勢が大きく変化しているの船出となる。新たな環境に戸惑うことも多々ある。力が強くなる。成長の道を見定め、力強く成長してほしい。

本校は今年度も、朝の読書と帰りのコラム視写で、「静」で始まり「静」で終わる一日一日を継続し、学力向上を目指し、適切なコラムを全校生徒で視写します。